

お知らせ

- 次回活動日；9月17日（月・休日）集合：9時40分第一駐車場、ニホンジカ調査、植生保護柵ネット設置、食害調査など予定しています。なお8月に植物調査などの臨時活動を計画する場合はご案内します。
- 新入会員紹介；西田宏氏（君津市）7月16日入会。3頁「千年の森活動に参加して」をご覧ください。
- 里山公開講座；里山公開講座（3頁）「竹林の拡大防止と竹材利用」受講希望者は7月30日までに連絡下さい。

活動の記録

6月17日（日）晴 参加会員3名 食害調査と食害対策 キノコ調査など

○ツチアケビの保護；1週間前の定例活動日マダケ林脇で発見の食害ツチアケビ第1号は2度目の食害で15センチ残すのみとなっていたが、金網で保護した。この日入口吊り橋近くに第2号ツチアケビを発見、30センチを残し食害を受けているが工事用ネットで保護。

○食害調査；林床植物及びタケノコなどの食害状況の調査撮影を行った。この日に続き6月22日、24日、7月1日にも入林し食害調査など行った。林床植物及び低木の食害は種類により被度に顕著な差があることがわかり、引き続き調査中、いずれ中間報告します。6月17日及び7月1日、大型犬大のニホンシカ確認。

○キノコ調査；この日はめぼしい発見なし。なお今年植菌シイタケホダ木に黒ゴム状キノコの蔓延を発見。このキノコは「ゴムタケ」のようです。ゴムタケはゼラチン質で食用にもなるそうです。

7月7日（土）曇 参加会員5名、福田洋先生指導の植生調査、きのこ班はきのこ調査

○植生調査；まず5年前に確認されているナツエビネを巨木林中心に徹底捜査したが残念ながら発見できなかった。その他の未確認貴重種も発見できなかった。02年リストの再確認種はイイギリ、オオカモメズル、オニドコロ、ツルマサキなど7種、新発見種はノイバラ1種。ノイバラとイイギリは最も目に付きやすい広場正面に鎮座！

ツチアケビ；6月10日発見のホテイチク林の第1号は2度の食害に遭い完全死滅、黒変。17日発見の吊橋近く第2号は小さいながら2個結実している。ヤマユリネット内ヤマユリはその後食害に遭わずひ弱ながら2株蕾をつけている。ネットの外のヤマユリは殆ど食害に遭い健全な株なし。この日最大の収穫はコ克蘭の開花確認。また食害を免れたオオバノトンボソウの開花も観察できた。（真鍋記）

○きのこ調査；今年もきのこのシーズン到来。ムレオオイチョウタケ（キシメジ科）、ガンタケ（テングタケ科）ウラグロニガイグチ（イグチ科）、ヒロハウスズミチチタケ？（ベニタケ科）など新種の発見があり、帰途中央博物館の吹春先生に同定して頂き標本になりました。やっぱり千年の森はきのこの森。これからどんどん新しい種類を見つけ良い標本を作っていきたい。（村野記）

7月16日（月・休日）曇 参加会員17名、台風一過後の好天候に恵まれ、シカ大捜索、マダケ保護状況調査、コナラ実生選抜、植生保護区域選定、貴重植物のスポット保護、シイタケホダ場の移設など多くの活動を行いました。この日体験参加の西田宏氏は即日入会しました。

○シカの個体数調査；島内にいるシカの頭数を数えるために参加者全員で島内大捜査を実施した。

A班：ほこら山から西側3ルート、

B班：吊り橋下から千年広場3ルート、

C班：ホテイ岬から千年広場2ルート、

千年広場と巨木林エリアに定点観察者4人

a.m10:10、班ごとにスタート地点へ、a.m10:30、各ルート一斉に踏査開始、a.m11:00、調査終了。結果は、目撃、声、足音の記録はなし。ただし、痕跡（おもにフン）は多数確認された。なるべく見落としがないように各コース踏査を行ったが、今日は本当にシカがいなかったのか、それともどこかに潜んでいたのか一頭も発見できなかった。調査方法を改善しながら今後も定期的に個体数調査を実施していきたい。（福島記）



○動物撮影調査；福島動物班長が6月22日マダケ林に設置したセンサーカメラを7月16日確認の結果、撮影枚数91枚，うち人間（会員）20枚，シカ7枚，ウサギ19枚が自動撮影されていました。



ニホンジカ

2007年7月5日 18時04分 マダケ林
防護柵外のタケノコを採食中。タケノコをかじって折ったところです。拡大してみたら…角がある！島内で初記録のオスジカです。



ニホンジカ

2007年6月23日19時28分 マダケ林
防護柵外のタケノコを採食中。左のオスジカと同一個体かもしれません。



ノウサギ

2007年6月28日 21時33分 マダケ林
防護柵外の周囲に頻繁に出没しているもよう。タケノコを食害する有力な容疑者です。

(記事・写真とも福島)

○マダケ保護調査；2007年春のマダケ保護の結果は、防獣ネット内6本、ネット外に6本の12本が、シカ食害を潜り抜けたと思われる。ネット内の6本は若竹であったが、ネット外の6本は高さ数メートルのタケノコ状態でこれから葉を広げて竹になるところであった。比較的遅く出たタケノコは被害を免れたようにも見えるが、さて…。12本には2007年発生のナンバーをふった。参考までも2006年の発生竹10本を確認したところ、いずれも無事であった。(伊藤記)

○コナラ実生選抜；コナラ更新林は、伐採後4年を経て萌芽更新がほぼ全滅したため、実生更新に切り替えた。伐採面積は20m×20mの400㎡なので、最終的にヘクタール1000本として選抜本数は40本となるが、伐採後4年を経ても、高さ50センチ程度と著しく成長が悪く、光量不足、シカ食害等も考慮してその倍の80本のコナラ実生苗を選抜することとした。コナラ実生苗は小さなものを入れると数百本が生存しているが、成長のよいものを2人一組で10本ずつ選抜し、N01～N080の番号札を立てた。(伊藤記)



コナラ実生選抜

○植生保護区域の選定；巨木林に10×10＝100㎡の方形区の植生保護区域を設け、保護ネットで保護するよう場所の選定を行った。区画Aは昨年伐採し、比較的明るい座標1-14周辺のエリア。区画Bは林床植物の多い座標2-7周辺のエリア。両区域を今後植生保護ネットで保護し対照区域との植生・食害の違いを調査します。(真鍋記)

○貴重植物のスポット保護；生き残った吊り橋近くのツチアケビ(2号)の工事用ネットを撤去し、亀甲金網で保護。このほかササバギンラン、オオカモメヅルも亀甲金網で保護しました。(今泉記)



亀甲金網で植生保護



ホダ場修復に汗を流す

○シイタケホダ場の修復；栽培きのこ班に力持ち会員の応援を得て、竹林脇ホダ場の転倒ホダ木やネットの竹竿はずれなど修復、防獣ネット取り付け、05年ホダ木と07年ホダ木の位置揃え、ホダ木の天地返しなどに汗を流した。(久我記)

「千年の森」活動に参加して

君津市 西田宏

インターネットで「千年の森づくり」のフレーズが目にとまり、千年付き合う森ってどんな森なんだろうと興味を持ち、先日の活動に初めて参加しました。

参加してみての感想は“非常に居心地が良かった”です。豊英島の森の静かでさわやかな木陰、気安く話ができる仲間、ベテラン揃いで森と一体となった充実感を皆さん楽しんでいらっしやる印象でした。

兵庫県三木市から田舎暮らしの情報誌で知った君津市久留里へこの5月に移って来たばかりで千葉がどんなところか全くわかっていません。兵庫ではボランティアと言う言葉に惹かれて県農林がサポートして立ち上げられた「ひょうご森の倶楽部」（会員約1000名/20数箇所のフィールドで人工林・里山林の整備作業/3年前に自立してNPO法人化）で5年ほど森林ボランティア活動に参加して、すっかり森のとりことなりました。これまでは目の前の森を救おうと木を切るのに夢中になってきましたが、千年は付き合ひましようと言われてどうやったら良いのか考え込んでしまいました。

豊英島は狭いながらもひとつの宇宙空間かなと思われ、いろんな植物の存続や動物・鳥・昆虫・魚の生活と“人の楽しみ”をどうやって折り合いをつけていったらよいのか学びたいと思っています。

平成19年度里山公開講座

テーマ：竹林の拡大防止と竹材利用

目的：千葉県森林では、管理放棄された竹林が周囲の森に侵入して拡大し、森林資源の劣化、景観の破壊、生物多様性の喪失が問題となっている。そこで、里山整備における竹林の拡大防止技術、竹材の利用技術を県民とともに検討し、普及することを目的に里山公開講座を開催する。

時期：2007年8月に4回、2008年2月に1回（全5回）

参加費：500円（保険料など）※1回参加された方は2回目以降、無料となります。

- 概要：第1回 8月8日(水) 森林研究センター（山武市）10:00～15:30
竹林の拡大防止策と竹材利用についての講義
第2～4回の竹林調査の説明、調査実習
- 第2回 8月10日(金) 大多喜町平沢 10:00～15:30
竹林調査の説明、調査実習、伐竹作業
- 第3回 8月17日(金) 南房総市和田町黒岩 10:00～15:30
竹林調査の説明、調査実習、伐竹作業
- 第4回 8月24日(金) 東庄町ふれあい公園 10:00～15:30
竹林調査の説明、調査実習、伐竹作業
- 第5回 森林研究センター（成果発表会）
全体のまとめ、森林の再生状況展示、竹材の利用方法展示

共催：千葉県森林研究センター（社）千葉県緑化推進委員会 ちば里山センター

協力機関：担当農林振興センター